

第 55 回自治体学校 in 新潟に参加しました

「みんなが先生、みんなが生徒」で全国の貴重な実践を学ぶことができる「自治体学校」に、益田牧子議員、上野美恵子議員、松岡徹県議が参加しました。記念講演は、渡辺治一橋大学名誉教授の「参議院選の結果と安倍政権」と題した講演。構造改革、改憲を阻むためには、地域での良心的保守層との連携・共同の必要性が強調されました。熊本市では、議員提案で「中小企業振興基本条例」を制定しており、分科会は、「地域経済再生へのみちすじ」に参加し、「どう生かしていくのか」学ぶことができました。ナイター企画では、「高い国保料を考える」に参加し、後期高齢者医療広域連合議会の経験から、「国保の県段階の広域化」の問題点などを発言しました。分科会など簡単に報告します。

韓国の地方自治について朴珍道教授が「特別報告」

自治体問題研究所創立 50 周年記念事業として、「韓国の地方自治—その現状と展望」と題し、1998 年、韓国の民主化の中で芽吹いてきた、「地方自治」についての朴珍道忠南大学経済学科教授の講演がありました。日は浅いけれど、盧政権の下で、04 年、地方分権特別法を制定し、住民投票や住民リコール制度を法制化。労働運動や様々な市民運動が、活発に展開されているのが印象に残りました。



朴教授（左から 2 番目）と池上洋通自治体問題研究所・主任研究員（左端）と上野議員（右端）と益田議員（右から 2 番目）で記念写真

自治体研究者発行のおすすめの書籍の紹介：お母さん町長奮闘記（京都・与謝野町長太田貴美著）長友先生、国保ってなんですか（長友薫輝、正木満之、神田敏史著）等多数。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町 1-1 議会棟 3 階

No. 862

2013 年 8 月 18 日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



「阿賀野市産業経済振興条例」後の取り組みに学ぶ

産業経済実態調査、市内団体参加で「基本計画」の策定

新潟市に隣接する阿賀野市（4 町合併により人口 4 万 4 5 0 0 人）は、09 年議員提案で、「産業経済振興条例」を制定しました。

条例制定後は、地元企業や商工会、農業団体、新潟大学などが参加し、2 年間かけて「基本計画」を策定。11 年には、すべての市内事業者を対象に、目的や課題、実態を明らかにする「産業別調査」や 1500 人を対象に、買い物や商店街の利用などの意識動向調査を実施。

基本計画では、4 つの将来目標、3 つの重点戦略（地域ブランド化、農業 6 次産業化、中心市街地活性化）を掲げています。

企業・団体の若いパワーで様々な活動を展開

熊本市が学ぶべきは、条例制定後の取り組みです。基本計画策定委員会に参加した若者を中心に、地場産業である安田瓦をアピールする「やすだ瓦ロードフェスティバル」や、異業種交流の「あがのわくわく産業フェア 2012」が取り組まれています。住宅リフォーム助成制度（3 年間で 2 億 2 千万円の予算、2 割助成、限度額 30 万円）や地場瓦の利用促進の補助制度もスタートしています。報告を聞き、熊本市でも条例を生かす取り組みの必要性を痛感しました。

（控室から） オリバー・ストーン監督の言葉

益田牧子

長崎の原水爆禁止世界大会に参加し、アメリカのオリバー・ストーン監督の「もう一つのアメリカ」の映像を見、話を聞きました。監督は、ベトナム戦争に、志願兵で行くような保守的な人間だったと言います。しかし、この 5 年間、アメリカ大学のピーター・カズニック教授との共同で、アメリカの戦後の軍事外交政策を正当化する「ウソ」を暴いています。歴史の真実を追及。広島・長崎への原爆投下も、日本の降伏は明白で、目的はソ連への「警告」だったと、克明な証言で告発します。

監督は、日本についても手厳しい。「ドイツは反省と謝罪の下で平和を守る国に変わったが、日本はアメリカの従属国のままで、経済大国だとしても、道徳的な大国になっていない」と。そして、被爆者に対しては、「大きな苦しみを受け、しかしその記憶を伝える責務を持ち、愛にあふれ、世界を本当に良くしたいという理想にあふれた大事な方々」とあたたかい。オリバー・ストーン監督から、歴史の真実に学ぶことの大切さを教えられました。

建物は、長く大切に使う時代です

日本共産党市議会だより 2013 年 8 月 18 日号・No.862

建物の再生・長寿命化を図る「リファイニング建築」の実際を見る

市民参加で、老朽化した「市民センター」築 30 年の再生を検討

1976 年に建設され、約 30 年経過していた「旧福祉会館」の再整備が市民参加で行われ、「清瀬けやきホール」へと生まれ変わりました。

再整備の検討過程では、市民アンケートが実施され、検討委員会へは公募市民が委員として参加しました。

方針の決定に至る段階で、市民参加による検討が行われ、「増築・耐震改修によるリニューアル」という方向性が出されました。

2006 年 9 月 町内プロジェクトチームが立ち上げられ、「清瀬市民センター再整備基本構想」(案)作成

2006 年 10 月 再整備に関する「市民アンケート」を実施

2007 年 6 月 再整備検討委員会の立ち上げ(公募市民も参加)

2007 年 10 月 再整備検討委員会答申「増築・耐震改修によるリニューアル」に決定

新築のようになった「清瀬けやきホール」、費用は約 15 億円

プロポーザル方式で事業者が決定され、①耐震化、②ホールを広げる、③集客力を高める、という 3 つの条件を満たす企画として、「(株) 青木茂建築工房」が設計者に。全面改修で、費用は約 15 億円でした。

用途：市民センター、図書館
公会堂(ホール)など

延床面積：3,972 m²

(存在感のある奇抜な外観)

工事費(本体他)	11 億 6700 万円
設計費他	1 億 6,000 万円
総事業費	14 億 8,800 万円



「清瀬けやきホール」視察報告(東京都清瀬市) 上野みえこ

市政 40 周年事業としてリニューアル、生まれ変わってオープン

新築のようになった「けやきホール」は、2012 年度には年間利用者数が増え、リニューアル前を上回りました。館内は、リニューアルとは思えないほどピカピカで、明るく、木材がふんだんに使われ、あたたかい雰囲気でした。客席は、座り心地の良い固定席で、広くゆったりと座れます。

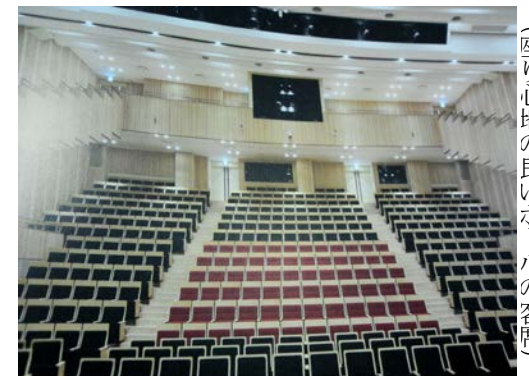
どこに座っても、音がよく、舞台を見やすいホールです。

リニューアルの実際を見て、公共施設を使えるのに築 30 年で壊してはならないと実感しました。

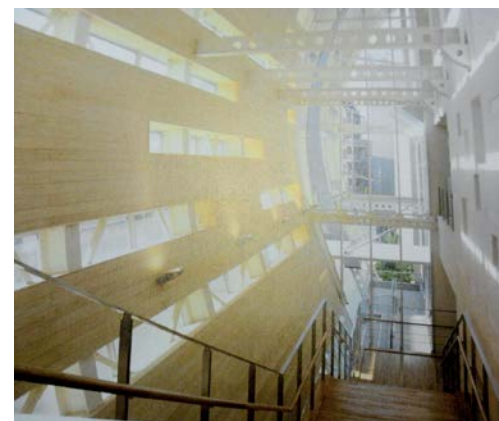
建設して 32 年しか経たない、まだ使える「産業文化会館」を取り壊すのは、もってのほかです。「清瀬けやきホール」にならって改修し、利用すべきです。



(1階ロビーから2階ホールへの階段)



(座り心地の良いホールの客席)



(1階から2階ホールへ上る吹き抜け)



(どこの席から見やすい舞台)